

# 東北地方 1か月予報

( 10月15日から11月14日までの天候見通し )

平成17年10月14日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう1か月の天候>

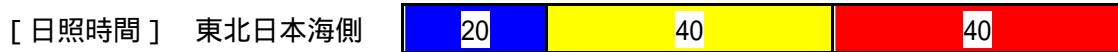
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北日本海側で平年並が多い、東北太平洋側で平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高い、2週目は高い、3~4週目は平年並が高いでしょう。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## <気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

## <予報の対象期間>

1か月 : 10月15日(土)~11月14日(月)

1週目 : 10月15日(土)~10月21日(金)

2週目 : 10月22日(土)~10月28日(金)

3~4週目 : 10月29日(土)~11月11日(金)

## <次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は10月21日

3か月予報 : 10月25日(火) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温( )	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温( )		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	11.2	122.8	150.8	13.3	12.0	10.3
新庄	9.4	178.1	90.3	11.8	10.3	8.3
若松	10.2	70.6	112.6	12.7	11.0	9.2
深浦	10.7	157.4	109.4	12.9	11.6	9.7
青森	9.8	122.4	129.5	12.1	10.7	8.8
むつ	9.5	113.5	143.1	11.8	10.4	8.5
八戸	9.9	72.5	158.8	12.3	10.8	8.9
秋田	10.8	172.1	123.8	13.1	11.8	9.8
盛岡	8.9	99.9	140.8	11.3	9.8	7.9
宮古	10.6	93.1	158.6	12.7	11.4	9.7
酒田	12.0	194.4	120.4	14.3	12.9	11.0
山形	10.4	74.4	124.7	12.7	11.2	9.3
仙台	12.2	81.0	155.7	14.4	13.0	11.2
石巻	11.5	86.0	163.0	13.8	12.4	10.5
福島	12.1	75.6	144.2	14.3	12.9	11.1
白河	10.6	81.9	153.8	12.7	11.4	9.7
小名浜	13.7	115.9	165.8	15.7	14.4	12.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.4	84~110	95~106
東北日本海側	-0.5~+0.5	92~107	95~106
東北太平洋側	-0.4~+0.5	69~120	96~105

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.5	-0.7~+0.7	-0.6~+0.7
東北日本海側	-0.8~+0.6	-0.7~+0.7	-0.6~+0.7
東北太平洋側	-0.7~+0.5	-0.6~+0.7	-0.6~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成17年10月14日 仙台管区気象台

## 1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(10月15日～11月14日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目(10月15日～10月21日):

期間の初めは、気圧の谷や前線の影響で曇や雨ですが、期間の中頃からは高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(10月22日～10月28日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3～4週目(10月29日～11月11日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

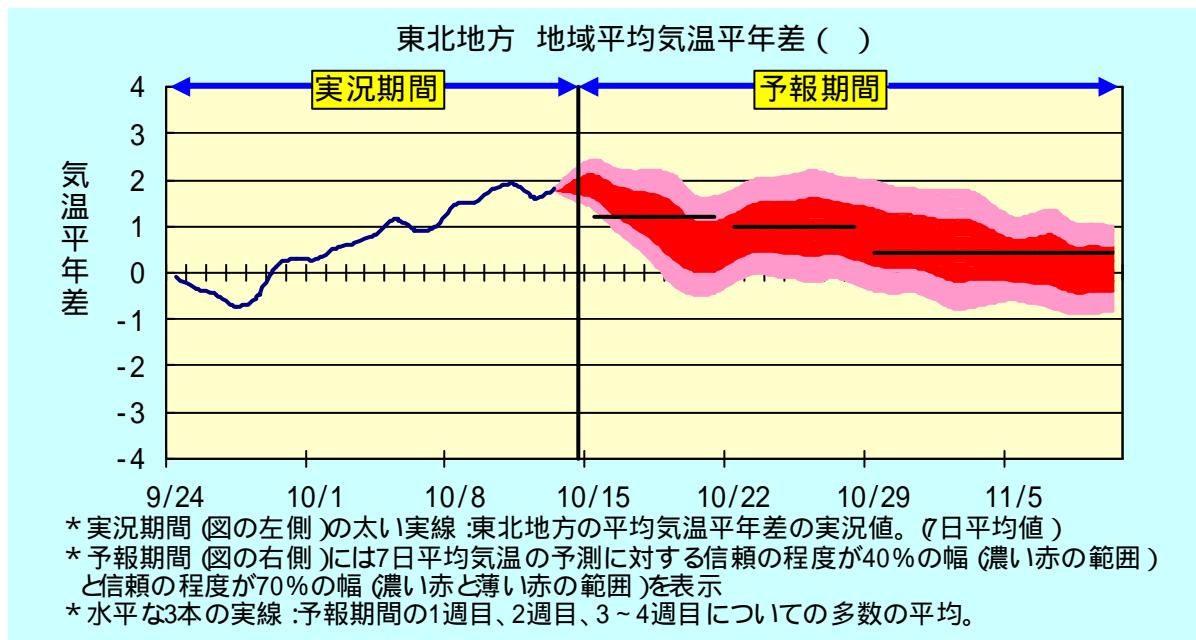
## 平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	12.3日	3.6日	3.3日	5.4日
東北太平洋側	17.1日	4.2日	4.5日	8.4日

## 2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目は「高い」、3～4週目は「平年並」と予測している。予報はその他の資料から3～4週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

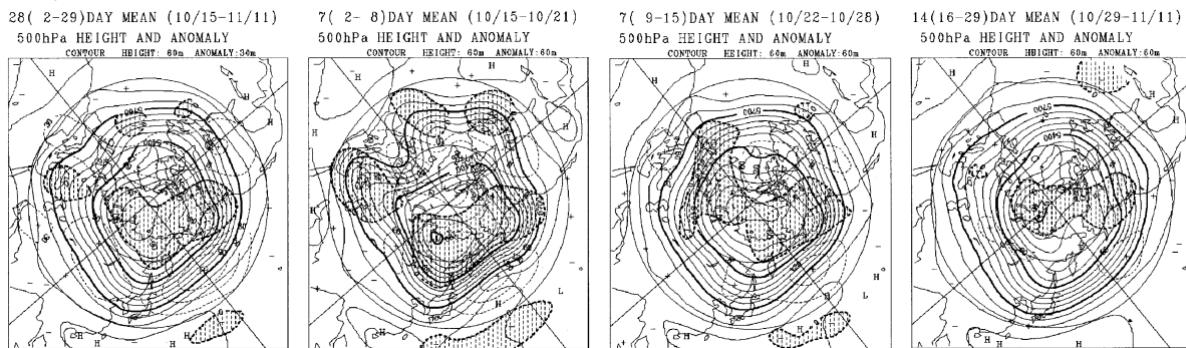


### 3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

#### 500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近から東シベリアにかけて負偏差。日本付近はユーラシア大陸と日付変更線付近を中心とした東西に広い正偏差に覆われる。日本海付近の気圧の谷は平年より明瞭。太平洋高気圧は華南方面へ張り出している。

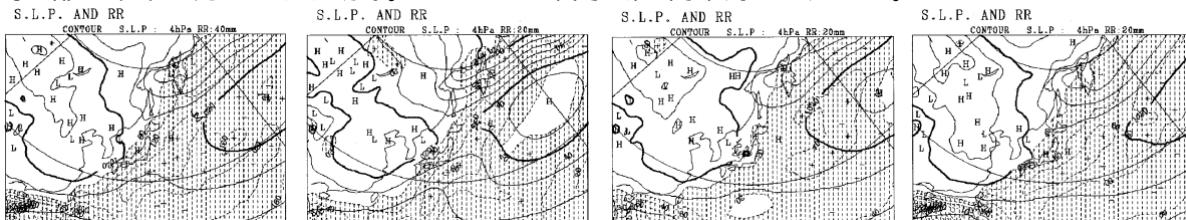
1週目は、日本付近は日付変更線付近から伸びる正偏差に覆われるが、極東の高緯度は負偏差。東経130度付近には深い気圧の谷が見られる。2週目は、月平均と同様に極付近は負偏差。日付変更線付近から日本の北にかけて正偏差。3~4週目は、極付近は負偏差。その他の地域は概ね正偏差。



#### 地上気圧と降水量：

月平均では、日付変更線付近の高圧部が平年に比べ強いものの、本州南海上から南東海上に伸びる気圧の谷も明瞭。まとまった降水域が南東海上に広がる。

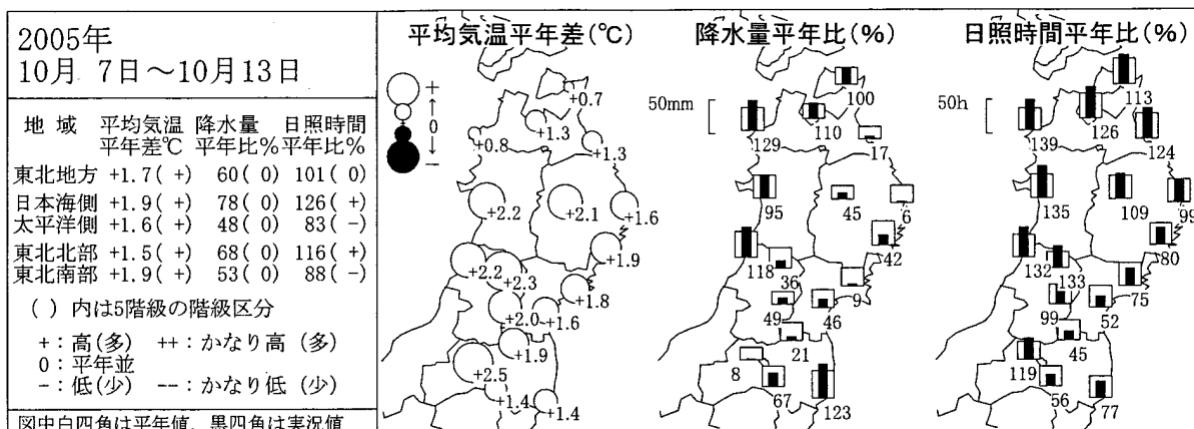
1週目は、日本付近は東西の高気圧に挟まれた谷場で、気圧の谷や熱帯擾乱の影響も予想される。まとまった降水域は本州の東から南海上に広がる。2週目は、月平均と同様だが、東西の高圧部が明瞭。南海上の降水域はやや弱い。3~4週目は、ほぼ平年と同様の気圧配置。日本の東の高圧部が平年に比べてやや明瞭。まとまった降水域が南東海上に広がる。



### 4. 最近1週間(10月7日~10月13日)の天候の経過

この期間、7~8日にかけて前線を伴った日本海の低気圧が北海道からオホーツク海に進んだため、東北日本海側を中心に雨となった。9~13日にかけては、大陸の高気圧が日本付近に進み、北偏して北日本から東日本を覆ったため、北部ほど晴れた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)